

帯域換算係数の適用対象設備について

平成29年4月26日
総務省 総合通信基盤局
電気通信事業部 料金サービス課

帯域換算係数の適用対象設備

- 現在の帯域換算係数の適用対象設備は、NGNで提供される複数の機能で共用される設備のうち、各県中継ルータ、伝送路（中継ダークファイバを除く）及び收容ルータ（高速制御部の一部を除く）となっている。

設備		帯域換算係数の適用対象
①エッジ設備（網終端装置、GWルータ等）		× ^{※1}
②伝送路	中継ダークファイバ	×
	伝送装置（WDM等）	○
③各県中継ルータ		○
④伝送路	中継ダークファイバ	×
	伝送装置（WDM等）	○
⑤收容ルータ	⑥高速制御部の一部	× ^{※2}
	上記以外	○ ^{※3}

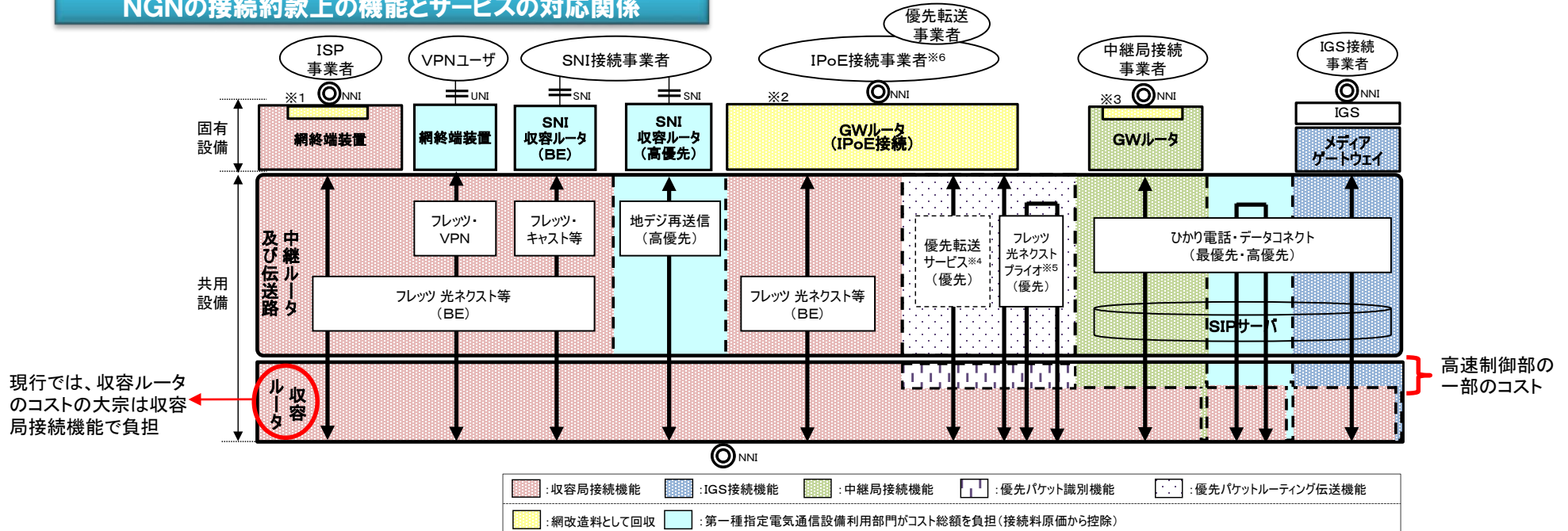
※1 エッジ設備は固有設備となり、該当する機能にコストを直課。

※2 ただし、收容ルータ（高速制御部の一部）のコストのうち、契約数比等により、ひかり電話に分計したコストをIGS接続機能、中継局接続機能、左記以外（接続料原価から控除）に分計する際に、帯域換算係数を適用したトラフィック比を用いて分計。

※3 收容ルータ（上記以外）のコストのうち、「フレッツ光ネクストへの加入を前提としないIP電話サービス（光IP電話のみメニュー）」（光回線電話）に係るコストを分計する際に、帯域換算係数を適用したトラフィック比を用いて分計。

NGNの共用設備のコスト配賦

NGNの接続約款上の機能とサービスの対応関係



※1 網終端装置の接続用ポート見合いのコストは、網改造料としてISP事業者が負担
 ※2 GWルータ(IPoE接続)については、網改造料としてIPoE接続事業者が負担
 ※3 GWルータ(中継局接続)の接続用ポート見合いのコストは、網改造料として中継局接続事業者が負担
 ※4 優先パケット識別機能及び優先パケットルーティング伝送機能を利用したサービス
 ※5 接続点のない網内折返し通信は、接続機能にはならない
 ※6 IPoE接続事業者が自ら優先転送事業者となることも可能
 NNI: Network-Network Interface
 UNI: User-Network Interface
 SNI: Application Server-Network Interface

(出所)NTT東日本・西日本資料等を基に作成

中継局ルータ及び伝送路のコストの配賦割合(平成29年度認可接続料)

【NTT東日本】

機能	①帯域換算係数:無	②帯域換算係数:有	②/①
收容局接続機能	98.65%	91.33%	0.93
IGS接続機能	1.03%	3.79%	3.68
中継局接続機能	0.01%	0.06%	6.0
優先パケットルーティング伝送機能	0.03%	3.34%	111.3
上記以外(接続料原価から控除)	0.28%	1.48%	5.29

【NTT西日本】

機能	①帯域換算係数:無	②帯域換算係数:有	②/①
收容局接続機能	98.69%	91.40%	0.93
IGS接続機能	0.95%	5.87%	6.18
中継局接続機能	0.01%	0.06%	6.0
優先パケットルーティング伝送機能	0.01%	0.57%	57.0
上記以外(接続料原価から控除)	0.34%	2.10%	6.18

※收容ルータ(高速制御部の一部を除く)のコストは、99.99%(NTT東日本)/100.00%(NTT西日本)が收容局接続機能に配賦されている(小数点以下第3位を四捨五入)